

司式 杉山昌樹牧師

前 奏

奏楽 堀口愛子姉

開 会 招 詞 詩篇95：1-7

\* 賛 美 歌 3：1 (ソングシート)

1. ちからの主を ほめたたえまつれ わがころよ、今しも目さめて、  
たてごと かきならしつ つ 御名をほめまつれ。 アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って  
ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、  
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも  
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び  
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この  
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それ  
に仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、  
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人  
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 48：1

1. 主よ、おわりまで 仕えまつらん、みそぼはなれず おらせたまえ。  
世のたたかいは はげしくとも、御旗のもとに おらせたまえ。アーメン

共同の祈禱 36 平和を創りだす日

平和の源であり調和を愛される神さま、あなたがくださったキリストは、実に、わたしたちの平和で  
あります。それゆえ、あなたを知ることは永遠の命であり、あなたに仕えることは完全な自由であるこ

とを<sup>おぼ</sup>覚えて、心<sup>こころ</sup>から御名<sup>みな</sup>を賛美<sup>さんび</sup>します。

キリストは神<sup>かみ</sup>の国<sup>くに</sup>の完成<sup>かんせい</sup>のために<sup>ふたたび</sup>再び来<sup>こ</sup>られますから、わたしたちは、教会<sup>きょうかい</sup>と国家<sup>こっか</sup>の改革<sup>かいかく</sup>のために、  
絶<sup>た</sup>えず目<sup>め</sup>をさましてキリストの恵<sup>めぐ</sup>みを祈<sup>いの</sup>り求め、そのために努力<sup>どりよく</sup>することができますように。

(エフェソ2、「教会と国家」四)

献 金 (黒) 教会活動・(赤) 8・15 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

(子どもプログラム)

聖書朗読 イザヤ1章11-19節(旧約 p.1061)  
コロサイ2章16-19」節(新約 p.370)

説教・祈祷 「本物を見抜く」杉山昌樹牧師

\* 賛美歌 51:1-3

1. 主にありてぞ われは生くる、われ主に、主われに ありてやすし。
2. 主にありてぞ われ死なばや、主にある死こそは いのちなれば。
3. 生くるうれし、死ぬるもよし、主にあるわが身の さちはひとし。アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天<sup>てん</sup>にまします我<sup>われ</sup>らの父<sup>ちち</sup>よ  
願<sup>ねが</sup>わくは御名<sup>みな</sup>をあがめさせたまえ  
御国<sup>みくに</sup>を来<sup>き</sup>たらせたまえ 御心<sup>みこころ</sup>の天<sup>てん</sup>になるごとく 地<sup>ち</sup>にもなさせたまえ  
我<sup>われ</sup>らの日用<sup>にちよう</sup>の糧<sup>かて</sup>を 今日<sup>きょう</sup>も与<sup>あた</sup>えたまえ  
我<sup>われ</sup>らに罪<sup>つみ</sup>を犯<sup>おか</sup>す者<sup>もの</sup>を我<sup>われ</sup>らが赦<sup>ゆる</sup>すごとく 我<sup>われ</sup>らの罪<sup>つみ</sup>をも赦<sup>ゆる</sup>したまえ  
我<sup>われ</sup>らを試<sup>こころ</sup>みに会<sup>あ</sup>わせず 悪<sup>あく</sup>より救<sup>すく</sup>い出<sup>いだ</sup>したまえ  
国<sup>くに</sup>と力<sup>ちから</sup>と栄<sup>さか</sup>えとは 限<sup>かぎ</sup>りなく汝<sup>なんじ</sup>のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 68

あまつみたみも、地にあるものも、父、子、みたまの神をたたえよ。アーメン

\* 祝 祷

後 奏 (黙祷)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：大日南隆夫・大日南信也執事 2階：藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音：  
大日南悠

次週 受付 1階：佐藤紀子・古澤迪子執事 2階：加藤良明執事 / ZOOMホスト・録音：番  
場駿也

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

## コロサイ2：16-19「本物を見抜く」

### 説教題

先週は説教題についてちょっと混乱があって失礼しましたが、今日こそは、本当に「本物を見抜く」が説教題です。これであっていただきますのでご安心ください。ところで、この場合に本物を見抜く、と言います時の「本物」とは、信仰のことです。キリスト教信仰です。わたしたちがイエス様を救い主として信じている、この事についてどうやら、本当のことと、ちょっと違うのではないか、と思うようなものがある、ということが今日の所で書かれているのです。とはいえ、私たちは、自分の信仰について、ああでもない、こうでもない、こっちが本物か、いやいや、こっちの方がそれらしい、といつも心配して頭をひねっていなければならない、という意味ではありません。

### 既に本物—これが大切

あるいはもっとはつきりと言ってしまうかもしれませんが、私たちは既に本物です。本物のキリスト者です。これが大切なところです。少なくとも、イエス様を信じて、洗礼を受けたその時から、私たちは本物です。誰が何といっても、そうです。このところでパウロがどうしても言いたいこと、それは、あなたたちはもう既に本物だ、だから、その所から離れてはいけない。ただ、これだけです。その場合に、わたしたちが、本物だ、というのは、必ずしも、私たちは完璧だ、という意味ではありません。神様の前で完璧な人などいません。例えば、ペテロをはじめとした12弟子たちは、何度もイエス様から、「信仰の薄いもの達」（マタイ6：30他）と呼びかけられています。けれども、それは信仰が薄いのであって、信仰がないわけではありません。実際の所、この信仰の薄い弟子たちを通して、神様の御心は進展していきました。教会がたて上げられていきました。問題は信仰があるかないかです。信仰が大きい小さい、ということに気をする必要はないのです。イエス様は神の国をからしだねに譬えられました（ルカ13：19）。神の国ですから神様のご支配されることです。それは、私たちの小さな信仰から始まっていく、そこから始まって大きな木のように成長すると言われましたし実際にその通りになっているのです。その点で私たちは、神様に信頼してゆったり構えていいのです。あるいは、ゆったり構えていなくてはいけません。

### 責められる？

けれども、じつは、ゆったり構えているというのは意外と難しいのです。なぜでしょうか。この世界には余計な雑音が響いているからです。今日の聖書の始まり16節では、ちょっと変わったことが言われています。食べ物や飲み物のこと、あるいは、祭りや新月や、安息日のこと、とあります。これらの言葉は、例えば律法の食物規定、清い食べものと、汚れた食べもの（レビ11章、申命記14章）といったこと、あるいは祭りや安息日の規定（申命記16章、レビ記23章等）、といったものを思い出します。もともと、飲み物についてはあまり厳密な規定はありませんけれども、ナジル人の請願と言って身を清める場合には、ブドウから作ったものを食べず飲まない（民数6：4）、といったことがあったようです。というように、これだけを見ますと、ユダヤ教の問題、あるいは律法の問題、のように見えます。けれども、もう一つ後の18節を見ますと、偽りの謙遜と天使礼拝、という言葉がありまして、実は、これはコロサイ2章8節で語られていた、宗教哲学的な教えのことを指しているようなのです。そして、問題は、彼らは、それらしい、という点です。いかにも信仰者らしく振舞うのです。そして、ただ信仰者らしく振舞うだけではなく、彼らの独自の視点から、批判をしてくるらしいのです。あなたたち、そんな生活でいいの、信仰ちゃんとしているの、というように、コロサイのキリスト者に向かって迫って来たらしいのです。これはなかなかやっかいな問題です。あなた、そんなお気楽な信仰生活でいいの、と言われてしまいますと、まじめな人ほど、ドキリとします。ああ、これで大丈夫か、もっと何かしなくちゃいけないんじゃないか、と焦ってしまったりします。

### ふりではなく

もちろん、私たちは、私たちとして、真剣にイエス様にお従いする、み心を祈り尋ねていく、そのような生活を忘れてしまっただけとはいえないのは言うまでもありません。けれども、これは大切なことでは

れども、そのような信仰の祈りは、おそらく、私たちの本音の部分、というのでしょうか。神様に対して感じている部分、神様に聞いてみたい、神様に訴えてみたい、神様に怒ってみたい、神様にお礼を言いたい、神様をほめたたえたい、といった単純な思い、あるいは、心の底からふつふつと湧き出てくる思いによって導かれるものはずなのです。ところが、この時、コロサイのキリスト者を批判していた人たちの特徴があるとしますと、それは、わざとらしい、この一言に尽きます。とりわけ、偽りの謙遜、という言葉が目にとまります。謙遜なふりをするのは、謙遜に見せようとするのです。しかし、そもそも、このふりをする、というのがすでに間違っているのです。ちょっとへそ曲がりなことを言うようですが、私たちがもし本物らしく見たいとか、こうしなければ信仰者らしくないかも、というように、自分で自分を本物にしよう、自分はこれで本物になる、というように考え始めるとしますと、すでにそこに危うさがあるのです。実は、この18節の後半は解釈が難しいところですが、どうも、ここで言う幻、とは、天使を見た体験のことらしいのです。けれどもパウロは、それは彼らが勝手にやっていることだ、というのです。「肉の思い」とは、まさに思い込みのことです。自分たちは大した体験をした、だから自分たちは正しい、信仰的に正しい、このようなどころから他の人を批判する姿を指して、「根拠もなく思いがあっている」とパウロは言います。その特徴は自分を大きく見せたがっているというところにあります。

### おかしい批判を斥ける

しかし、ここでパウロが言いたいのは、このような人たちに対する批判、こんな人たちはダメだ、ということではないのです。そうではなくて問題は常に私たちです。なんだかすごそうなことを言う人たちを前にして、しかし、あなたたちは一歩も引いてはいけません、というのです。この短い個所で二度もこのことが繰り返されています。一度目は16節の終わりです。「誰にも批評されてはなりません」、そしてもう一回は先ほどの18節「不利な判断を下されてはなりません」。とありますとおりです。これを昔の文語訳聖書では、「汝らの褒美を奪わるな」としていました。少し意識しているようです。もともとの単語の意味は失格者だと批判される、ということばです。でも、そのような批判を真に受けてはいけません、それは、せっかく持っている良いものを奪われてしまうことになる、とパウロは言うのです。それで、今日は、午後から8・15集会で、平和について考える時を持ちますので、少しその関連のこと、といたしても、午後の講演は大会憲法委員会が作成しておられる平和の宣言についてですので、今は、前の戦争の折のキリスト者のことについてお話しします。と言いましてもあまり長く引っ張るつもりはありません。この間祈祷会である姉妹から、カルヴァン神学研究所の講演でバルメン宣言について聞いてとても良かった、と感想をうかがいました。

### 圧力の中で

バルメン宣言というのは第二次世界大戦中にドイツ福音主義教会が出した宣言です。当時ナチスが政権を取った時に、これに迎合し、戦争に協力する立場の人たちがドイツ的キリスト者運動というものを展開しました。これに対抗して立ち上がった人たちが作ったのが、ドイツ福音主義教会です。彼らがバルメン会議を開催しそこで作成されたのがバルメン宣言ですが、その第一項だけ読んでみます。最初にヨハネ14章の「私は道であり命であり真理である」および10章の「私は羊の門である」という御言葉が掲げられます。それに続いて「聖書において我々に証しされているイエス・キリストは、我々が聞くべき、また我々が生と死において信頼すべき神の唯一のみ言葉である」。少し飛ばして、後半です。「神の唯一のみ言葉のほかに、またそれと並んで、さらに他の出来事や力、減少や真理を、神の啓示として承認しうるとか、承認しなければならないという誤った教えを、我々は退ける」。大変きっぱりと言いつつ切っています。我々はみ言葉にしか聞かない、ヒットラーに神の御心が現れている、などという与太話なんか信じない、と言いつつ切っています。ナチスが幅を利かせ、多くの国民がヒットラーに心酔しているあの状況でこれを言うのはかなり勇気が必要だったでしょう。そして事実その後の闘争は厳しいものでした。正しい言葉を聞いていくのには時に苦しい思いを求められるかもしれません。

### 問題は頭

ただし、そこで、私たちは勘違いしてはいけません。それは、わたしたちが、批判をは

ねつけると言った時に、それは、自分の力だけでそうしていくということではないということ、この所でパウロがしっかりと語っている点です。私たちは、決して滅びを覚悟して、すべてを背負ってしゃにむに敵に突撃していく悲劇のヒーローではないのです。ただ、一つだけ、わたしたちがわきまえていなければならないことがあります。それは、誰が本当の支配者か、という点です。このところで、パウロは敵の正体を暴いています。それは19節冒頭の言葉の通りです。「頭であるキリストにしっかりと根付いていないのです」。例えば先ほどの、ドイツ教会闘争で言えば、ドイツ的キリスト者運動を展開しナチスと組んで帝国教会を立ち上げた人たちは、ヒットラーに神の働きを見出そうとしました。ドイツの領土が広がることを神の国の接近と見なしました。しかし、そこでは、ヒットラーこそが神の御心を実現する英雄となってしまいます。そこにはイエス様はいません。しかし、そのようなもの、イエス様とつながっていない者は、いずれ滅びるのです。そして事実そうになりました。

#### 組み合わせられ成長を味わう

しかし、イエス様をかしらとするものは、すなわち、それは私たちの教会がまさにそうですが、この頭の働きにより、とありますように、イエス様の力によって、イエス様の働きかけを受けていくようになるのです。そして、どうなるかと言いますと、キリストの体になるのです。体全体、とあるのはその意味です。私たちは、信仰をもったその時から、もはや、ばらばらではないのです。キリストの体の一部になっているのです。また、ただそうになっているだけではなく、それは成長していくのです。ここで、節と節、筋と筋とある言葉は、様々に訳せますけれども、靱帯とか、腱といった体の大切な結末点、あるいは、ひもとか帯とも訳せるようです。いずれにしても、このようにして、私たちは、組み合わせられ、建て上げられていくのです。それは神様の御業です。神様が用意してくださった成長を味わっていく、そのようにして成長するのです。

#### 本物を見抜く

そのような意味で、この成長は、教会の成長は神様が計画し用意し、実行してくださっているのです。そこでもし私たちに求められることがあるとすれば、わたしたちが、頭であるイエス様につながっていることです。そして、イエス様につながっているということは、イエス様のみ言葉に聞いている事実にほかなりません。ただこの事、本物である方を見抜き、その声に聞いていくこと、そこにとどまっている限り、私たちは、この神様の養いの中で守られ、成長させられるのです。

#### 祈り

全能の父なる神様。聖名を賛美します。あなたはキリストを私たちの頭としてくださり、また、道、命、真理としてくださいました。イエス様にのみ、真があります。そして、そのイエス様を通して、あなたは私たちを神の国の住民としてくださっておりますから感謝します。どうか、わたしたちが、このまことの道から、右にも左にもそれることなく、ただ、み言葉に聞き従っていく従順さを与えてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。